

書店で活せる? ニューコンテンツ

「フリース・ドッグ」人気

本ではないが書店と相性がよい、というコンテンツは少なくない。アーティス

トのSINCOさんが開発した「フリース・ドッグ」もそのひとつ。飼い犬など



SINCOさんが開発

の毛を材料に犬の人形を作るといふ一風変わった手芸で、コツさえ掴めば誰にでもできるとい

う。米国版「ニューズウィーク」でも「世界が尊敬する日本人」として紹介されるなど、その魅力が国内外で徐々に認知されている。

自身の犬好きが高じ、思いつきで作ったのがきっかけ。「実際の毛を使うなんて人によっては理解できないかもしれないけど、飼い犬との別れは、人生における大きなショックなんです。思い出として残すには悪くない方法だと思って」。

自身のホームページなどで発表したところ反響は思いのほか大きく、現在は自作を発表すると同時に、制作用のキットを販売。東京

・二子玉川の高島屋内では月に一回、教室も開いている。各自のこだわりにもよるが、小さいものなら二時間程度で完成するという。自著も『Fleece Dog』(文化出版局、04年7月刊)、『Sweet Fleece Dog』(ホ

ーム社発行、集英社発売、07年12月刊)とすでに二作あり、処女作は昨年、イギリスで翻訳出版された。

実現の可否はSINCOさんのスケジュールなどにもよるが、サイン会・実演・教室開催・制作キット販売など、書店での活かし方は多そうだ。まだ広く浸透していないジャンルだけに、いまが買いどき? SINCOさんホームページ <http://sincoweb.com/>